



『^え咲む』秋田地域上映会

- 期 日：令和4年9月25日(日)
①10:00～(受付9:30～) ②13:30～(受付13:00～)
- 会 場：秋田市文化会館 小ホール (秋田市山王七丁目3-1)
- チケット：大人 1,200円 (高校生以上)
小中学生 500円 乳幼児無料

全国各地で絶賛上映中!!

聴覚障害の主演女優の他に多くの出演者も障害者です。ストーリーも素晴らしく、感動的な映画になっています。是非、一人でも多く声をかけて会場にお越しください。

●主催／「咲む」秋田地域上映会実行委員会

【構成団体】秋田市ろうあ協会・全国手話通訳問題研究会秋田支部中央地域班・秋田市手話研究会・男鹿サークル「ぶりっこ」

【チケット・申込み・問い合わせ先】事務局：秋田市ろうあ協会 (秋田市旭北栄町1-5)

FAX 018-864-2782 Eメール：roukyou.akitasi220815@gmail.com

『^え咲む』秋田地域上映会鑑賞申込書

ご氏名	FAX番号 () -	
上映会時間	① 10:00～() ②13:30～()	聴覚障害者(名) 聞こえる人(名)
チケット料 支払い方法	() 秋田市ろうあ協会事務局 () 予約のみ当日受付※	大人 1,200円 (名)
		小中学生 500円 (名)
		合計 円

※予約のみの方は、この申込用紙を当日受付にご持参の上、チケット料金をお支払いください。

【コメンタリー】

全日本ろうあ連盟、初の製作映画「ゆすり菓」(2009年)は、上映会場750か所、上映回数1250回、動員40万人を突破し、各界から大きな反響を得た。前作から十年余り、国連障害者権利条約の批准を契機にろう者の言葉である「手話言語」が認知され、各地で手話言語条例が広がり、教育、司法、医療など、各分野で活躍するろう者も増え、ろう者や手話言語について社会の理解が進んでいる。しかし、「きこえない、きこえにくい」ということによる社会の偏見、差別、偏見はなくなったわけではなく、目まぐるしく変わる社会情勢による新たな問題も生まれ、課題は多く残っている。2017年に創立70周年を迎えた連盟は、きこえに関係なく様々な人々が共生していく社会を目指し、再び映画製作に挑戦した。映画「咲む(えむ)」は、一人の若きろうの女性を通して、喜びや葛藤の中で生き、

様々な課題を乗り越えていく姿から、「ろう者」とは「きこえない」とは何かということ、そして、「手話言語」は魅力的で素晴らしい言葉であること、ろう者独自の文化を市民に広く伝え、ろうの子どもたち、また若いろう者、家族等に幅広く夢を与えていくことをコンセプトに製作した。脚本・監督は「ゆすり菓」に続き早瀬憲太郎。これまでの経験を活かし、きこえる俳優・スタッフと見事に連携し、新たなエンターテインメントを創りあげた。主人公の瑞月役を、NHK「中学生日記」に出演した藤田菜々子(ろう者)が熟演。彼女を見守る家族に高島良宏、鈴まみのろう俳優、村で瑞月を迎えるのは、島かおり、丘みつ子、佐藤誠次郎など素晴らしい俳優陣。盲ろう者やほかの障害のある人たちも出演する映画「咲む」は、観る人すべての人を笑顔にする。



演出 菜々子 島 かおり 赤塚 真人 宮下 順子 田中 康寛 高島 良宏 鈴まみ 山中 蓮城 伊是名 夏子 佐藤 誠次郎 丘みつ子
 脚本 監督 早瀬 憲太郎 製作総指揮 石川 康志 監修 中野 浩二 脚本 高島 良宏 音楽 小林 善平 撮影 鈴木 伸一 S.C. 照明 東村 政 録音 船橋 洋一
 美術 中野 浩二 編集 山崎 和 効果音 志保 久美子 ライフマネージャー 武井 千明 制作担当 島田 武海 衣裳 宮本 美子 ヘアメイク オキワケ エキ
 制作プロダクション 株式会社ラダーゲル アダハイパー 山崎あさひ 中島 貴紀夫 「手話言語条例」高瀬 聡 本村 尚実 【2023年 115号 日本手話言語 日本手話言語 普及委員会(Digest)】



【ストーリー】看護師国家試験に合格したろうの女性の瑞月(みづき)は、就職活動で苦戦。そんな折、ある村の診療所で雇われる話が舞い込み、意気揚々と村にやってきた瑞月。しかし、採用を見送られることになり、落ち込む瑞月に役場から思わぬ仕事の紹介が…。村に住みながら懸命に取り組む瑞月だったが、様々な壁が瑞月を阻んでいく。相手を想った行動が思わぬすれ違いを生み、そのわだかまりを解くこともできずに苦しんでいる大人たち。瑞月の起こす行動は、そんな大人たちを少しずつ変えていく。そして、村も大きく変わっていく。

みづき いちず
瑞月の一途さ、ひたむきさが多くの人を結びつける



2022年3月21日『咲む』秋田県上映会参加者の感想(アンケートの一部抜粋)

- 鑑賞の機会を頂きありがとうございます。ご準備、コロナ禍での開催ありがとうございます。
- 私は先天性心疾患と知的を持つ息子の母親ですが、それはそれは発覚時は替わってあげたいの一心でしたが、そんな事は叶はずもなく、前を向き毎日楽しく明るく進んで行くことだなぁと思って今まで進んで来ています。努力と根性で解決して来た私の人生で初めて、どうにもならない事もあると学んだ時ですね。
- それからは、なんとなくどうにもならない事多い事！多い事！(笑)これは障害を持ったとか無いとか全く関係ないですね！！生きるってそんな事もありますヨ。積極的に自分の心に正直に楽しい明るい日々をこれからも進んで行きたいと思います♪周りの方達と一緒に♡
- 大変なことや障害を乗り越えたりとかではなく、ただ前を向いて進もう。本当にそれだけでいい。受け入れて認めて何も行動しないのではなく、少しでも今の状況を良くしたいのなら変わりたいという思いを持って前に歩いていくということをわたしはそう感じました。キャストの方たちの演技もとても自然ですばらしかったです。
- 映画を見終えたとき、前に進もうとする主人公に感動し、同時に、社会の中で障害をもつ人の生きづらさを改めて感じました。映画の中では、ろう者だけでなく、盲ろう者や車いす生活で外出が大変な方などいろんな障害を持つ方が出演されていたり、旧優生保護法の問題もとりあげられており、たくさんのことを考えさせられました。限界集落の中で、主人公が村の人たちに受け入れられ自信を取り戻して前に進む姿に、これからの社会の中で差別なくみんなが共有できる未来が、いつかきっと訪れることを信じたいと思いました。すばらしい映画に感謝です。